

ライフステージに応じた養護教諭の研修体系と 研修内容の工夫

機関名（宮崎県教育研修センター）

職・氏名（指導主事 山腰 美穂子）

1 主題設定の理由

中央教育審議会（平成20年1月17日）において、養護教諭の職務と役割についての提言が行われた。その中で、「養護教諭が子どもの現代的な健康課題に適切に対応していくためには、学校保健に関する新たな知識や技能などを習得することが必要である」ことが示され、研修の重要性や必要性が高まっている。

本県においても、生活習慣の乱れ等から起こる体調不良や、いじめ、不登校等の心の健康問題に加えて、アレルギー疾患や感染症への対応など新たな課題も顕在化している。多様化する現代的な健康課題を解決するためには、正しい知識に基づき迅速かつきめ細かな対応が必要である。

養護教諭の研修については、宮崎県教育委員会の「教職員の資質向上実行プラン」を基に、ライフステージに求められる資質や能力と職種の専門性等の観点から、宮崎県教育委員会スポーツ振興課と連携して作成した本センター独自の研修体系がある。昨年度は、作成した体系に基づき養護教諭に対して具体的な研修を実施した。そこで明らかとなった課題等について改善し、養護教諭の資質向上を目指し、研修の充実を図るための方策を探ることとした。

2 研究内容

研修には次のような意義があると考えられる。一つは、「知識や情報を得ること」である。養護教諭が専門職として得ておくべき知識は、年々増加している状況にある。二つは「実践力の向上」である。日常の執務を効果的に推進するためには、課題に即したスキル等を身に付ける必要がある。これらを研修の中で、ライフステージに応じて適切に組み立てることが求められる。また、研修機関としては、研修した内容を各学校での実践に繋げていくために、受講者のモチベーションを高める工夫が必要になる。

そこで本年度、以下の2点を研究内容として取り上げることにした。

- 専門研修における、ライフステージに応じた具体的な研修内容の整理
- 異校種・異職種等との共同研修を通しての学びの充実

3 研究の実際

(1) 専門研修における、ライフステージに応じた具体的な内容の整理

本センターにおける養護教諭の研修体系は次のとおりである。

ライフステージ	能力育成期(教職1~5年目)	能力拡充期(教職6~10年目)	能力発揮期Ⅰ(教職11~20年目)	能力発揮期Ⅱ(教職21年~)	管理職	
研修名	基本研修			長期研修	職能研修	
目標	初任者研修	1年経過研修	5年経過研修	10年経過研修	15年経過研修	リーダー養成研修 教育に関する専門的研修及び社会体験研修を行うことにより、本県教育のリーダーとしての資質向上、さらには本県教育水準の向上を図る。
目標	教職員としての基礎的素養と養護教諭の職務における基本的内容を身に付ける。	児童生徒理解力を高めるとともに、保健室経営上の諸問題に対応できる実践力を高める。	現代の児童生徒の健康課題に対応し、積極的に学校保健活動を展開できる実践力を高める。	養護教諭の個々の能力、適性に応じた研修を通して専門性を高め、学校保健活動の中核的な役割を果たす力量を高める。	中堅養護教諭としての専門性を高めるとともに、指導的役割を果たす力や進んで学校経営に参画する意識を高める。	職能及びその経験年数に応じた基本的事項や専門的事項の研修を実施し、資質の向上を図る。
資質・能力	<p>学校経営参画意識/リーダーシップ/マネジメント力</p> <p>専門的な知識・技能の向上/得意分野の開発</p> <p>学校保健活動を積極的に推進する力</p> <p>実践的な対応力</p> <p>基本的な職務遂行力</p> <p>養護教諭としての自覚・使命感</p> <p>教育公務員としての自覚</p>					
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ○高血圧症 ○健康診断 ○健康問題の把握 ○疾病の手防と管理 ○学校環境衛生 ○安全点検 他 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導 ○保健学習 ○啓発活動 他 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康相談 ○保健室経営 ○保健組織活動 ○今日的な課題 ○自己啓発 ○スクールコンプライアンス ○教育指導上の現状と課題 ○幅広い社会性 ○学ぶ意欲 ○論と合同 ○その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭の職務における基本的内容 ○自己の課題の明確化 ○積極的な保健室経営 ○保健指導の充実 ○T・TIによる授業 ○養護教諭の職務における発展的内容 ○組織的な学校保健活動の展開 ○課題研究 ○校内や地域の関係機関との連携 ○校内や地域における指導的役割を果たすことへの意識付け ○養護教諭の視点での教育的課題の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校組織マネジメント ○校内や地域における指導的役割 ○社会体験研修 ○校長(教頭)の役割とリーダーシップ ○学校経営とスクールコンプライアンス ○学校・家庭・地域との連携 	

資料1【養護教諭の研修体系】

各研修において、その時期に目指す姿が「目標」として示されている。必要とされる資質や能力については、多くの養護教諭がこれまでの経験等によって身に付けているものである。しかし、養護教諭は一人配置が多いという現状から、日常の執務では自分のスキルレベルを確認する方法が少なく、アンケート等の結果をみても経験経過年数に関係なく「自分の執務内容が正しいのか不安になる」「管理職や他職員の期待に応える仕事ができているか分からない」という意見が出てくる。そこで、このような養護教諭の不安軽減のため、研修の中に次のような工夫をすることにした。

ア 研修形態の工夫

経年経過研修では、講義だけでなくできる限り演習等を取り入れるようにしている。そのことで、受講者が主体的に参加し、意欲を高めることができる。更に同じ経験年数の養護教諭を集め、一緒に演習等に取り組むことで、活発に情報交換を行うことができ、学びが深まるという効果もみられた。10年経過研修や15年経過研修の受講者についても同様で、それぞれの得意分野から学びあうことができた。

イ ライフステージに応じた研修内容の工夫

研修企画の段階で研修体系を確認することは、ライフステージごとに目標とする資質や能力について振り返る機会になった。例を挙げると、初任者研修を含めて各経年経過研修に必要な講座の一つに「感染症」に関する内容がある。それを研修体系に当てはめて内容を検討すると資料2のようになる。

研修対象	目 標	研修内容
初任者研修	職務における基本的内容	予防すべき感染症の基礎知識
5年経過研修	学校保健活動を展開できる実践力	予防方法等の保健指導
10年経過研修	学校保健活動の中核的な役割	校内の組織的な取組と地域等との連携
15年経過研修	指導的役割や学校経営に参画する力	校内組織とマネジメント

【資料2 養護教諭の研修体系に「感染症」に関する研修内容を当てはめたもの】

このように、養護教諭として必要な専門研修の場合、経験年数によって求められる資質や能力に応じて、講話内容だけでなく演習の題材についても工夫を加えるようにしている。

ウ 講師の選定

実践発表の場合、ベテランの養護教諭だけでなくライフステージが同時期の養護教諭にも依頼している。経験年数が近い講師が実践発表を行うことにより、親しみやすく身近な取組として感じてもらうことができる。

(2) コラボレーション研修を通しての学びの充実

研修センターだからこそできる研修に、異校種・異職種等との共同研修がある。養護教諭の多くは一人配置なので、日常の校内研修や学校全体で取り組む必要のある課題への対応には、他の教職員との連携が欠かせない。したがって、職種による考え方や視点の違いを知ることは重要なことであり、お互いから学ぶべきことは多い。そのことを意図的に体験させる研修を、次のように行っている。

ア 異校種・異職種との研修

(ア) 初任者研修

三日間の宿泊研修を活用し、テーマに基づいたグループワークを行った。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭と少数職種である栄養教諭、養護教諭の異校種・異職種で1つのグループをつくり、話し合うようにしている。このような体験をした後、同校種・同職種でまとめを行うことで、学校組織における養護教諭の役割を確認するとともに、教諭との連携について深く考えることができる。



【宿泊研修でのグループワーク】

(イ) 10年経過研修

生徒指導における対応の在り方について、具体的な事例を基に、管理職や学級担任、保護者、養護教諭等の役割を設定し、ロールプレイを行った。他の役割を演じることで、視点が立場によって違うことに気づき、場面や相手を意識した発言や対応につながることを学ぶことができる。養護教諭



【10年経過研修でのロールプレイ】

の学びは勿論だが、教諭にとっても養護教諭の立場を経験することにより、お互いの理解につながっている。

イ 養護教諭の経年経過研修におけるコラボレーション

(ア) 合同研修

年に一度、初任者研修・5年・10年・15年経過研修の合同開催を行っている。大学教授等を講師にして養護教諭の職務に関する講座を実施しているが、演習を行う際は、意図的に異なる経年経過研修の養護教諭とペアを組むことにより、ライフステージによって積み重ねる資質や能力の違いを感じることができるように工夫し、研修の充実を図っている。

(イ) 5年経過研修と15年経過研修

15年経過研修受講者の実践発表を5年経過研修受講者が聴く内容になっている。5年経過研修受講者にとっては先輩の実践を学ぶことで、職務に必要な能力や力量を育成することができる。



【養護教諭の合同研修】



【養護教諭の5年経過研修と15年経過研修】

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ ライフステージに応じた資質や能力を受講者に示すことにより、各自の取組を見直すきっかけになった。
- ・ 他職種とのコラボレーション研修により、多くの視点や発想を学ぶことができた。それにより、養護教諭の執務の在り方について深く考える機会になった。
- ・ 経年経過研修でのコラボレーションにおいては、OJT機能を発揮する機会が増え、養護教諭の「縦のつながり」を作ることができた。

(2) 課題

- ・ ライフステージに応じてどのような力量をつけてほしいのか、明確な意図をもち、研修を組み立てる必要がある。
- ・ コラボレーションでの研修を行う際は、双方に得るものがあるように、内容を検討する必要がある。
- ・ 現代的な健康課題にも適切に対応できる研修を企画していく必要がある。